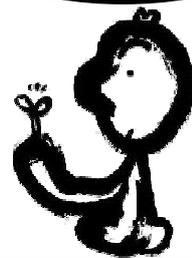


# しみん基金・KOBÉ

# NEWS

第18号

2009年4月発行



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203(サンピア2F)

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

しみん基金KOBÉ10周年を迎えて



しみん基金KOBÉは、阪神・淡路大震災をきっかけに、日本で初めて“市民が市民活動を支える”ファンドとして創設されました。主な活動内容は、草の根の市民公益活動を財政的にご支援するというものです。

阪神・淡路大震災のあと、仮設住宅での暮らしが終わろうとしている時、仮設の住民が次の住処にいても自立が出来ない。また、このままで、仮設住宅から復興住宅に移住すれば初期の時と同様に孤独死が出るのではないかとの思いから、「一人のひととしてのいのちを救う。為に何が出来るのか、被災地の関係者と協議し、市民の手で市民が創る基金こそが、今、最も求められているのではないかと考えました。その当時、神戸青年会議所の理事長の任にあった瀬戸口仁三郎氏にも参画していただきました。(現在は当基金の専務理事をしていただいています。)

当基金は、「最期の一人までも見捨てない」を理念に公益的な活動を展開してきました。生きた助成金は現場で受援者と共に歩みながら公益的な事業をより具体的に展開することにあると考えます。また、「自立と共生」を基盤におきながら実践活動を展開出来る人々のために助成金の意義があると考えます。

ところで今では全国で同趣旨の様々なファンドが出来てきました。そしてファンド額も高額になってきています。当基金は、産・官・学・民のネットワークを築いています。

震災を通じて見えてきたことを、社会情勢に合わせてボランティア活動として展開・検証し、社会の多様化・複雑化するニーズの先取りとしての社会公益事業を実践してまいりました。また、当然ですが公的支援を受けることもなく、むしろ公的機関が実践しなくてはならないところまでもボランティアが実践しているというのが現実です。阪神・淡路大震災から15年目を前にして、ボランティア活動も市民権を得て、ボランティアが社会を変革するまでもなってきました。こうした積み重ねの「力と技」を有効に生かしながら、広く深くすそ野を広げた活動を展開することを願いたいのです。が、運営面・資金面においては、多くの問題をかかえています。資金獲得においては、歴史的にみても日本には寄付行為に対する認識は諸外国に比してまだまだ薄い面がありますし、制度としても寄付優遇税制が不十分であったり、苦慮する日々が続いています。

市民の寄付行為については、自分が暮らす地域社会を自分たちの手で、豊かに、住みやすく、暮らしやすいものにつくり上げることにつながるのですが、現状ではまだまだ思うように展開できないのが現実です。

例えば、今話題の「定額給付金」の使い方を考慮している皆様、市民活動をしているボランティア団体に対して寄付をしませんか。そのお金が市民活動に有益に使われれば、「定額給付金」がより活きることになるのではないのでしょうか。

今後も更に市民社会が豊かになるように、具体的な活動に対しての助成事業を実施していきたいと考えています。その為にも、資金獲得に向けてこれまで以上の関係性作りを発展的に行っていきたくて考えています。「自発的・主体的な市民と市民による地域連携型組織が責任をもって社会に参画し、こころを育みいのちを大切に持続可能な地域社会を展開していきたいと考えます。「人間」と「地域」と「暮らし」が一体化する中でお互いが暮らしを支えあい、次世代に向けて、意味ある「市民社会」を確立したいと考えています。

(特活)しみん基金・KOBÉ理事長 黒田裕子

## 主な目次

- |                                     |                                     |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ◆ こうべiウォーク&1・17メモリアルコンサートのご報告 - 2   | ◆ 定額給付金をNPOへの寄付へ! ----- 5           |
| ◆ ぼたんの会・夜会 vol.7 & 定時総会のご案内 ----- 3 | ◆ しみん基金 KOBÉ 活動報告 ----- 6           |
| ◆ 平成21年度しみん基金 KOBÉ 助成事業のお知らせ - 4    | ◆ コラム「市民社会を支えるお金の流れを考える」(4) ----- 7 |



## ～ぼたんの会 1.17メモリアル・コンサート～ 竹下景子さん “詩の朗読と音楽の夕べ”

ご報告



震災から14回目の1月17日(土)、今年も神戸新聞松方ホールにて、ぼたんの会実行委員会と復興支援コンサート実行委員会の共催で「1.17メモリアルコンサート竹下景子さん“詩の朗読と音楽の夕べ”」を開催しました。

今年も全国から「夢」「希望」「勇気」をテーマにした詩を多数ご応募いただきまして、誠にありがとうございました。その中から厳選された4つの詩を、林晶彦さんの即興演奏とともに竹下景子さんに心を込めて朗読していただきました。急遽出演をお願いした「左手のピアニスト」として著名な智内威雄さんのピアノ演奏もとても心に響くもので、気持ちの安らぐひと時を過ごすことができました。

\*

なお、今回は開演直後に会場が入っている建物の高層階にて火災が発生したため、公演を一時中断して建物の外へ全員避難していただく事態となりました。幸い大事には至らず、安全が確認されたのちに、一部プログラムを変更して公演を再開させていただきました。

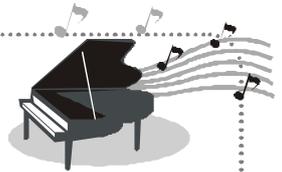
お客様や出演者等関係者のご理解とご協力に厚くお礼申し上げますとともに、多くの皆様方にご迷惑とご心配をおかけしましたことは誠に申し訳なく、あらためてこの場を借りて心よりお詫び申し上げます。



～詩の優秀作品入選者～ (プログラム順)

豊蔵楓さん(神戸市) 東小百合さん(明石市)  
横田裕子さん(猪名川町) 涌井悦子さん(新潟県)

「ぼたんの会」とは、文化を通じて新しい社会貢献(寄付の文化)のスタイル確立を目指して、地域の中で大切な役割を果たすように成長してきた NPO・NGO へのファンドレイジングを目的に 15 団体で結成された協働プロジェクトで、コンサートやパーティーなどを企画・開催し、その収益の一部を市民活動やボランティア活動を支える資金として活用するしくみです。当基金は、「ぼたんの会」実行委員会の事務局を担っています。



## あい こうべウォーク2009 ご報告

1月11日(日)に「こうべあいウォーク2009」を開催しました。これは、阪神・淡路大震災で被災した地域を歩いてまちの復興を確かめるウォークイベントです。

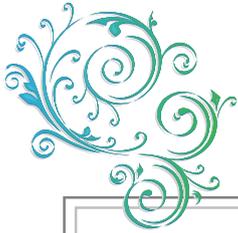
当日は寒空の中、約250名の方と一緒に歩くことができました。中には、10年ぶりに歩かれた方もいらっちゃって、ボランティアガイドの説明にも力が入りました。朝9:30に大国公園をスタートして、お昼ごろには全員無事にゴール地点に到着して、あたたかい豚汁を一緒にいただきました。

スタート地点で募金(一口千円)を行いました。当日の経費を差し引いた約20万円が、当基金へ寄付されることになりました。詳細は、下記URLにも掲載されています。

<http://www.kobe-machiken.org/juku/iwalk/iwalk09/iwail09.html>



主催:こうべあいウォーク2009 実行委員会(神戸復興塾、(特活)神戸まちづくり研究所、まち・コミュニケーション、(特活)しみん基金・K O B E) 協力:近畿労働金庫・地域共生推進室



# ぼたんの会・夜会 vol.7

ぼたんの会では、5月に「ぼたんの会・夜会Vol.7:Final」を開催いたします。

震災からの復興の過程で生まれてきた様々なボランティア活動は、今や地域社会の中でなくてはならない存在になってきました。こうした活動を支える仕組みのひとつとして、寄付という参加の形があることを多くの人に知ってもらいたいという想いで企画され、今年で7回目を迎え最終回となりました。これまで以上に、充実したチャリティー・オークション、美しい音楽やエンターテイメント、美味しい料理に囲まれたお洒落な一夜をお楽しみいただけます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

なお、現在前売りチケットをぼたんの会実行委員会の下記の各構成団体にて絶賛発売中です。お知り合いの団体に問い合わせただければ、チケットを手に入れることができると同時にその団体を支援することにつながります。何卒よろしくお願い申し上げます。

\*\*\*

【構成団体】(特活)市民活動センター神戸、(特活)兵庫県子ども文化振興協会、被災地NGO協働センター、(財)神戸学生青年センター、(特活)神戸まちづくり研究所、(特活)ゆめ風基金、(特活)しみん基金・こうべ、アートサポートセンター神戸、(特活)コミュニティサポートセンター神戸、移住労働者人権裁判基金、公益信託亀井純子基金



日時：2009年5月21日(木)

開場 18:00 ~ 開演 18:30 ~

会場：北野ガーデン

神戸市中央区北野町2-8-1

JR・阪急・阪神「三宮」駅より徒歩10分

TEL 078-241-2411

会費：¥10,000

出演：新井深絵(ゴスペル・シンガー)

宮川真由美/ピアノ伴奏

南部真知子(神戸クルーザー・コンチェルト社長)

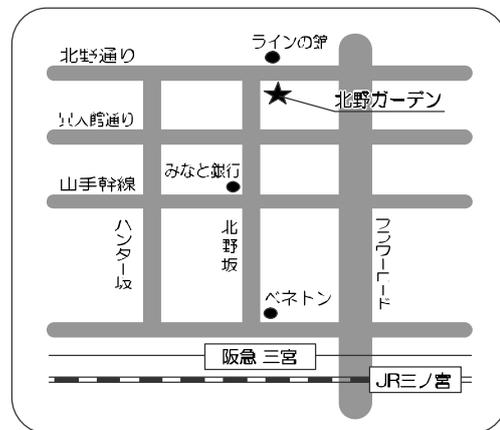
ヴィッセル神戸(サッカー)

ナオコ・ルクミニエー(南インド古典舞踊)

川端民江(マジック)

飯田美奈子(ソプラノ歌手)

司会：小山乃里子



チケットのお求めは、しみん基金・K O B E 事務局  
(TEL: 078-230-9774) でも承っています。

## 平成21年度しみん基金・こうべ定時総会 開催のご案内

来る平成21年5月27日(水)17:00より、平成21年度特定非営利活動法人しみん基金・こうべ定時総会を開催する予定です。総会では、平成20年度の事業報告及び決算報告と平成21年度の事業計画・予算計画を審議いたします。正会員の皆さんは、是非ともご出席いただきますようお願いいたします。

日時：平成21年5月27日(水)17:00~

場所：しみん基金 K O B E 事務所(予定)

スケジュール(予定)：

17:00~18:00 平成21年度しみん基金・こうべ定時総会

## 平成21年度しみん基金・こうべ助成事業のお知らせ

しみん基金・こうべの助成事業が今年も始まります。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも、社会的課題の解決に地道に取り組んでいこうとされる市民活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい大切に育てていこうというのが当基金の趣旨です。概要は以下のとおりですが、詳細は6月下旬に当基金のホームページを通じて発表いたします。

なお、今年より、申請提出前の個別事前相談会(予約制・予定)を、締切1週間ほど前まで開催いたします。初めて申請される団体は、できる限りこれを受けて申請書を作成されることをお勧めします。

### 概要

助成額:1事業につき事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。(特に事業分野・使用用途の限定はございません。但し、指定寄付による特定枠が設定される場合があります。)

選考方法:原則として、書類審査・ヒアリング調査の上、公開審査会でのプレゼンテーションにより決定します。  
助成対象:神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体(法人格の有無は問いません)

### スケジュール(予定)

平成21年6月下旬 : 応募要項公表、助成説明会・個別事前相談会(～8月)  
7月～8月 : 応募申請受付期間  
9月～10月 : 書類審査・ヒアリング調査  
10月下旬 : 公開審査会、覚書締結・助成金交付  
平成21年10月1日～平成22年9月30日 : 助成事業実施期間・中間ヒアリング  
平成22年10月 : 最終報告書提出  
11月 : 助成事業成果報告会

## 2009年度はあ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業の結果報告

しみん基金 K O B E では引き続き、兵庫県遊技業協同組合・神戸新聞グループで構成された”はあ～とふるふぁんど委員会”より、「ひょうごボランティアあしすと」支援プログラムの助成事務を受託しました。

平成21年1月7日(火)～2月27日(金)までの申請受付期間に兵庫県下の140団体からご応募があり、4月上旬の”はあ～とふるふぁんど委員会”における審査を経て、別表の通り36団体に支援金が贈呈されることに決定しました。

### 平成21年度支援先団体名

No	団体名	No	団体名
1	グループ・リハ きづな	19	(特活) マブイ六甲
2	うたの街	20	朗読ボランティア わっしょい わっしょい
3	やまとボランティア	21	兵庫県視覚障害者サッカー協会
4	スペシャルオリンピックス日本・兵庫神戸プログラム	22	兵庫県手話サークル連絡会
5	西宮安全の絆グループ	23	暴力団組事務所追放等協議会
6	一校区一家庭・置塩校区の会	24	ひょうご福祉ネットワーク
7	朗読ボランティア R.T.かわにし	25	三田市消費者協会 暮らしの研究 EM フラネット
8	菅生校区あおぞら会	26	(特活) 阿久伊羅
9	ふれあいサロン にこにこ	27	(特活) 医療、環境サポート協会
10	播磨マリクルー	28	あけぼの兵庫
11	珍ちくりん劇団	29	多文化共生センターひょうご
12	まま et ママ	30	小野さつき盆栽会
13	(特活) 障害者自立センター	31	きすみのまちづくり協議会
14	ふれあいネットワークしもかげ	32	八幡こども見守り隊
15	芦屋市特別支援教育研究協議会	33	福祉作業所ハーモニー
16	姫路ボランティア連絡協議会	34	ベルディーホール応援団 フルハウス 616
17	手話サークルたるみ	35	神鈴会
18	(特活) KOKORO 和 KOBE	36	(社福) 神戸聖隷福祉事業団 神戸光生園

# 定額給付金をNPOへの寄付に！関西ネットワーク(KNPO)

<http://www.hnpo.comsapo.net/knpo/>

## 【設立の経緯】

2008年12月1日発行の市民活動総合情報誌「ウォロ」の中で、大阪ボランティア協会の早瀬昇事務局長が、定額給付金を市民が取り組む「公共」活動に集めなおす運動を繰り広げることを提案されました。同様な考えをもっていた柏木宏大阪市立大学大学院教授らとともに、「定額給付金に関するNPO関係者の声明文」が起草され、全国から46人の賛同が寄せられました。また、昨年12月17日に大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野主催によるシンポジウム「定額給付金をNPOへ！市民公益活動の資金に集め直す理念と手法」が開催されました。2009年に入り3回の会議を開催し、以下の趣旨に沿って共同行動をとっていくことになりました。

## 【活動の趣旨】

定額給付金の支給が実施されることになりました。政府には、国民から徴収した税をまとめた資金として活用し、社会問題を解決する政策を実行する責任があるはずですが、その責任を放棄したような施策で、釈然としないという方も少なくないと思います。

昨年秋からの急激な景気後退のなかで、給付金を必要とする方も少なくないでしょう。しかし、当初言われていた「生活支援」定額給付金という観点に立てば、「生活支援」として給付金を必要としない方々は、「生活支援」を必要とする方々に役立つ事業などへ活用することが選択肢の一つとして出てくると考えられます。

この提供先のひとつとして、NPOがあります。各NPOが提供する様々なサービスや活動は、「生活支援」を必要とする方々にとって、貴重なものと考えられるからです。それに、NPOによる手法が政府よりも、より効率的・効果的に社会問題を解決できる場合も少なくありません。

しかし、どのようにしてNPOに寄付をしたら良いのか、またどのNPOに寄付をしたら良いのか、わからない方も多いのではないのでしょうか。あるいは、そもそもNPOという選択肢を思いついていらいっしょらないかもしれません。

このため、給付金の受け皿としてNPOを選択肢としてもらうことを、NPOが合同して呼びかけていくとともに、寄付を受けるNPOに寄付募集のあり方などを助言していく必要があるのではないのでしょうか。

このような考えに立ち、具体的にどのように「定額給付金をNPOに寄付」することを促していけるのか、議論を続けてきました。その結果、NPOへ寄付することの意義を説明するとともに、給付金を寄付として受け取り様々な市民活動に助成している市民型ファンドや給付金をNPOに寄付したい人向けの相談・照会などを行う中間支援組織の方々リストを作りホームページで紹介することを通じて、「定額給付金をNPOへの寄付に！」ということ呼びかけていくことになりました。

## 【しみん基金・K O B E としては・・・】

当基金としましては、上記の趣旨に賛同し寄付を受け取り様々な市民活動に助成する市民型ファンドとして参加することになり、当基金のホームページに専用ページを設置しました。

当基金への定額給付金に基づく寄付金は、平成21年度しみん基金・K O B E 助成事業の助成金として活用し、神戸市周辺地域の様々な市民活動への支援に使わせて頂きます。なお、定額給付金に基づくご寄付を頂く際に寄付者の方々からのご意見をお聞きして、それを助成方針に反映させ、助成先選考のプロセスの中で生かしていきたいと考えています。また、助成決定後の助成先団体の活動報告などを、ホームページ等を通じて公開します。

これを機会に、「税金」を通じて実現される「公共」にはない市民による公益活動の意義を知ってもらい、ひとりひとりの意志を社会問題の解決に結び付けることのできる「NPOへの寄付」の大切さを、さらに訴求していきたいと考えています。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 【ネットワーク参加団体】(3月27日現在)

### 市民型ファンド

- 1) しみん基金・K O B E
- 2) ゆめ風基金
- 3) ソーシャル・デザイン・ファンド
- 4) ひらかたNPOセンター；地域貢献NPOサポートファンド
- 5) 千里・住まいの学校
- 6) 街づくり夢基金
- 7) 奈良NPOセンター；なら未来創造基金
- 8) 大阪NPOセンター；“志”民ファンド
- 9) 市民活動フォーラムみのお；市民活動応援ファンド
- 10) CS神戸；市民活動サポート基金

### 相談対応する中間支援NPO

- 1) とよなか市民活動ネットきずな
- 2) 関西NGO協議会
- 3) 市民事務局かわにし
- 4) たかつき市民活動ネットワーク
- 5) 八尾市市民活動支援ネットワークセンター「つどい」
- 6) ひらかたNPOセンター
- 7) 千里・住まいの学校
- 8) 奈良NPOセンター
- 9) 市民活動フォーラムみのお
- 10) 市民活動センター神戸
- 11) 関西国際交流団体協議会
- 12) SEIN(堺市)
- 13) 大阪ボランティア協会
- 14) CS神戸
- 15) 大阪NPOセンター

詳しくは、KNPOのホームページをご参照下さい。







## コラム・市民社会を支えるお金の流れを考える(4)

しみん基金・K O B E事務局長 江口 聡

初回のこのコラムで、標題のことを考えるにあたっては、以下の3つの立場ごとに整理する必要があるとしました。それは、

- (1) NPO/NGOなど市民活動側に求められていること
- (2) 資金や労力・知恵を提供する市民側に求められていること
- (3) 両者を仲介する中間支援組織に求められていること

でした。前回までの2回のコラムでは、このなかの(1)の立場で「寄付」や「助成」のことを考えてきました。今回からは(2)の立場、すなわち「市民社会」を支える市民側に求められていることについて、掘り下げて考えてみたいと思います。

### 寄付文化の日米比較

平成17年の内閣府によるNPOに関する意識調査等によると、日本と米国で寄付した経験のある人の比率はともに70~80%とあまり変わりがないとのことでした。

それなのにどうして日本に寄付文化がないかという、それはひとつには、個人寄付の比率が少ないことにあります。日本では、企業・団体による寄付の比率が約7割であるのに対して、米国では個人寄付の比率が約9割を占めています。さらに、ひとりあたりの寄付金額が、日本ではここ数年は平均すると年間3千円程度なのですが、米国では年間約20万円にのぼるとのことでした。

また、日本における個人の寄付先は共同募金、赤十字社、ユニセフ、24時間テレビなど有名なところに集中している一方、NPO/NGOへ寄付した経験のある人は、全体の3%弱しかいません。但し、NPO/NGOへ寄付をしたいと考えている人は24%ほどいて、残念ながらこの差の約2割の人たちは、想いはあっても行動につながっていない、との結果が出ています。

なぜそのようなになっているかということですが、一方では前回まで述べてきたNPO/NGOなど市民活動側の、寄付の働きかけや説明責任の欠如であるわけですが、もう一方で社会の成り立ちのちがいや個人の意識や社会との関係の持ち方のちがいに由来しています。ここでは、後者についてさらに考えていきます。

### 信頼社会/安心社会

よく社会的背景のちがいについて考えるにあたって、宗教的な

要素に言及されることが多いのですが、最近の研究によるとイギリスにおける「チャリティ」の起源は、むしろ税金徴収への対抗によるところが大きいそうです。(\*1) また、中世初頭の東大寺再建に際しては、広く庶民から浄財が集められたという歴史を、この国は持っています。

むしろ、近代になってからの国家社会の形成のちがいにその差は由来している、と私は考えています。例えば、米国に行った日本人は米国人と似たような寄付行動を取るそうですが、逆に日本にきた米国人はあまり寄付をしないそうです。

米国では、その建国の経緯から「コミュニティ」の存在が大切にされてきました。つまり、近隣や他人への「信頼」に基づき社会が形成されてきました。一方で、日本は戦前から戦後を通じて国家が公益を独占して引っ張ってきた影響で、大きなものに「安心」を求める依存傾向が強いようです。北海道大学の山岸俊男教授が、そのあたりのことを寄付行動の社会心理学的な実験を通して明らかにされています。(\*2) つまり、米国は「信頼社会」で、日本は「安心社会」といわれる所以です。但し、日本がこれだけの大幅な財政赤字を抱え、また地球規模の環境問題に直面する中で、いつまでも「安心社会」を求めるばかりで果たして持続可能な社会を築くことができるのでしょうか？

### 日本ファンドレイジング協会への期待

今年の2月に東京で「日本ファンドレイジング協会」(\*3)が設立されました。その目標は、日本でも寄付という行為が高く評価され、NPO/NGOのファンドレイジング担当者が誇りと自信をもって仕事を遂行し、また寄付者が幸せと満足を実感できる新しい寄付社会を創造する、と掲げられています。そのためには、これまでのような「安心」を求める社会から、「信頼」に基づく社会への意識の変革が必要です。社会変革への第一歩に大いに期待するとともに、微力ながら貢献していきたいと考えています。

(つづく)

\*1 「チャリティとイギリス近代」金澤周作著(京都大学学術出版会 2008)

\*2 「安心社会から信頼社会へ」山岸俊男著(中公新書 1999)

\*3 日本ファンドレイジング協会 <http://blog.canpan.info/jfa/>

### <リサイクル寄付のお問い合わせ&ご協力方法>

古着: オレンジスリフティ TEL 078-858-7090  
〒657-0027 神戸市灘区永手町 3-1-208  
オレンジスリフティ 六甲店

- ・ 上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・ 送付の際は、メモにて「しみん基金こうべ リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・ お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家電・音楽機器・パソコン等の電子機器:  
(株)こうべリサイクルセンター リサイクル寄付事業部  
TEL 078-303-6201  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 1-1-14



- ・ 上記お問い合わせ先へお電話下さい。「リサイクル寄付」とお伝えください。
- ・ お電話にて、商品がリサイクル品として再販可能かどうか確認させていただきます。
- ・ 再販可能と判断された場合は、上記のあて先まで宅配便にてご送付下さい。「リサイクル寄付」と明記ください。送料はご負担いただきますようお願いいたします。



## 14年目のひとり言 ～あれから十年経ちました～



しみん基金・こうべ設立から10年、時の流れの早さを感じている。設立年の1999年は震災から4年、神戸の街は未だ復興途上にあった。マヒした街の様々な機能は容易には回復せず、市民によるボランティア活動はそれらを補完するセクターとして認知されつつあった。とは云え、ボランティア活動と市民活動との違いがはっきりとしない中、「ボランティア活動に何故資金が必要か？」等という質問をよく受けたものだ。その度に「ボランティアも団体として息長く活動していく為の運営資金が必要なのです。そんな草の根の活動を支援するべく、私たちはしみん基金・こうべを設立しました」とお答えしていた事を思い出す。

あれから10年、取り巻く環境は大きく変わり、市民活動も社会の一翼を担うセクターとしての一定の認知を受けるまでになった。また、市民活動のフィールドも随分広がってきている。しみん基金・こうべのこれからを考える上で、この10年をしっかりと検証し、出来た事と出来なかった事、それぞれの原因を精査する必要がある。そして、「草の根の支援」の理念を果たす、当基金のこれからの役割を見出し、ていかなければならない。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

### 会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 39名 団体 5名

賛助会員 個人 128名 団体 15名

(2009年3月末現在)

寄付・募金合計金額 760,756円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

オレンジスリフティ、小林正平、白水土郎、福原初子

神戸市職員労働組合、兵庫県遊技業協同組合、

武田政義、こうべi-ウォーク2009実行委員会、

ぼたんの会実行委員会、奥はるこ

(2008年12月～2009年3月)

皆様に、心よりお礼申し上げます。

次号の予告(2009年7月発行予定)

・平成21年度定時総会のご報告

・平成21年度事業計画・予算計画のご紹介 など

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
団体会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892

みなと銀行 本店営業部 普通 1597921

近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854

郵便振替 00990-5-157334

口座名義 「しみん基金・こうべ」

### あとがき

「人は入ってくるもので生計を立て、与えることで人生の意味を創る」ということばに最近出会いました。与えたことは、未来に向けて有形無形に遺されていくという意味だと思います。

「与えること」が素敵であるような社会にしていきたいものです。(え)